

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後 期

科目No.	455	科目名	リスク学特論4		サブネーム	人間工学と安全管理	
連携機関	産業医科大学	レベル	中級	講義日時	土曜日 14:00-15:30、15:50-17:20	講義場所	お茶の水女子大学
科目概要	労働現場に存在する、いわゆる「人間工学的設計」がなされていない多くの不具合は、疲労や事故を引き起こす。ここでは人間工学の概念と人間工学的デザイン(設計)とはどのようなものなのかを解説し、その応用をいくつか解説する。また、ヒューマンエラーの問題に焦点を当て、その原因と対策について解説するとともに、組織のあり方についても考える。						

サブタイトル	No.	講義名	講 義 概 要	講義日	教室	講師名	所属
人間工学の基礎	1	はじめに/人間工学の概念	講義目的, 講義概要, 評価方法, 学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。 人間工学の基本概念, およびその定義を紹介する。	10月4日 11:50～	共通講義棟 3号館103号室	三宅 晋司	産業医科大学
	2	人間工学的デザイン①	人間工学的デザインおよび作業現場の人間工学的改善の例を紹介する。	10月4日			
	3	人間工学的デザイン②	アフォーダンスの概念と人間工学的デザインの関連について解説する。				
人間工学的評価と その応用	4	産業疲労とその評価①	作業負荷・作業負担・疲労の関連について説明し, 作業負荷・負担および疲労の評価方法について解説する。	10月11日	共通講義棟 1号館101号室	伊藤 昭好	
	5	産業疲労とその評価②					
	6	人間工学チェックリスト①	対策選択型アクションチェックリストの典型である人間工学チェックリストの構成と対象領域について解説する。	10月18日		近藤 充輔	
	7	人間工学チェックリスト②	人間工学チェックリストを利用した職場改善実践やリスクアセスメントの事例をもとにして具体的な使用法を解説する。				
ヒューマンエラーと 安全管理	8	作業環境騒音の対策	作業環境騒音の対策を考える際に基本となる、音の性質、関係法規、騒音障害防止のためのガイドライン、および工学的な騒音対策技術について解説する。	11月1日			
	9	安全管理の実際	労働安全衛生マネジメントシステムを有効に機能させるには、安全管理の固有技術が重要である。ここでは、災害発生のメカニズムと安全意識の向上のための多様な安全管理活動について解説する。				
	10	生体リズムと交代制勤務	夜勤や交代制勤務が労働者に及ぼす影響を概説し, 夜間作業の安全や労働者の健康を確保するための対策について述べる。	11月15日	人間文化創成 科学研究科全 学共用研究棟 405号室	庄司 卓郎	
	11	安全風土の形成	産業界において、同業他社よりも極端に事故が少ない企業には安全を重視する文化(安全文化)や風土(安全風土)が根付いていると言われている。ここでは、安全文化、安全風土の特徴と、それが作業員の安全意識に及ぼす影響、さらに、その醸成方法について説明する。				
	12	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーとは何か、なぜ起こるのかについて考え、その対策を解説する。To Err is Human (誤るは人の常)、すなわち、ヒューマンエラーは必ず起こるという前提から、エラーを起こしても大事故につながらない、あるいはエラーが起こせない対策を考える。	11月22日 11:50～	共通講義棟 1号館101号室	三宅 晋司	
	13	事故傾性	エラーや事故を起こす人に特徴的なものは何か?それを知ることによって、事故予防に役立てることができるか?ここではいくつかの性格特性や認知スタイルを紹介し、事故傾性との関連を解説する。	11月22日			
14	組織と事故	誰かが事故(ヒューマンエラー)を起こすと、その者を「犯人」にして処罰を行うなどの対応がとられるが、ヒューマンエラーを起こす真の原因は組織の体質や上層部の管理のありかたに起因することもあり、ここではそのような潜在的要因について解説する。					
企業の社会的責任	15	企業経営とCSR	我が国においても重要な経営課題となってきた企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility : CSR)について、CSRが求められる背景・動向や日本企業のCSRへの取り組み状況について解説する。	11月29日 14:00～	人間文化創成 科学研究科全 学共用研究棟 405号室	秋山 幸雄	